

都市再生整備計画 事後評価シート
宇都宮駅周辺地区

平成23年3月

栃木県宇都宮市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	栃木県		市町村名	宇都宮市		地区名	宇都宮駅周辺地区			面積	71ha			
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	2,101.4百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【道路】宇都宮駅西口広場、市道1635号線 【地域生活基盤施設】(仮称)交流広場(水路修景施設)、公共サイン 【高質空間形成施設】宇都宮駅東口広場、自転車歩行者専用道路、旧篠原家住宅修復事業、歩行者支援施設(エレベーター、エスカレーター)、公衆便所 【高次都市施設】東西自由通路(駅前広場部、跨線部)											
		提案事業	【地域創造支援事業】都心居住の促進											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	【地域生活基盤施設】(仮称)交流広場(交流広場) 【高次都市施設】(仮称)広域交流プラザ、(仮称)産業観光情報プラザ、 駅東口南北歩行者デッキ、駅東口東西歩行者デッキ			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	【地域創造支援事業】中心商店街の活性化、 文化の振興(旧篠原家住宅修復事業)			・民間事業者が拠点施設整備を辞退したことで、拠点施設整備と併せて実施予定であった事業が行えなくなったため。 ・中心市街地出店等促進事業補助金の利用がなく今後も見込めな いたため ・市の単独事業へ振り替えたため			民間事業者の辞退に伴い、高次都市施設等の整備ができなくな ったことから、目標を一部変更するとともに、指標1の数値目標 を下方修正。また、(仮称)交流広場及び(仮称)広域交流プラザ の整備ができないことから、『交流広場イベント回数』『コンベン ション施設利用満足度』の指標を削除					
	新たに追加した事業	基幹事業	【道路】市道929号線、市道1525号線 【地域生活基盤施設】自転車駐車場 【高次都市施設】今泉地域コミュニティセンター			・安全で安心して利用できる歩行空間を形成するため ・交通結節機能の強化のため ・賑わいの創出や市民の交流機能の拡充を図るため			『地域の魅力を向上し、ひと・もの・文化が活発に交流するまちづ くり』に関連するが、指標及び数値目標は据え置く					
提案事業		【地域創造支援事業】防犯対策事業			・安全で安心なまちづくりの推進のため			『すべての人にやさしく安全で安心なまちづくり』に関連するが、 指標及び数値目標は据え置く						
交付期間の変更	当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響		—								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	指標1	宇都宮駅乗降客数	人/日	70,000	H14	72,000	H22	70,832	68,320	△	あり なし	●	近年の経済情勢の変動による大手製造業の工場閉鎖等の影響もあり、いまだ減少傾向にあるが、交通結節機能の強化に取組んだことで、従来の減少傾向に比べると、減少が緩やかになった。	平成24年7月
	指標2	今泉地域コミュニティセンター年間利用回数	回/年	260	H17	390	H22	375	429	○	あり なし	●	都心居住促進策等の実施により、居住人口が微増したほか、今泉地域コミュニティセンターの整備による市民の交流活動の促進により、施設利用回数が増加した。	平成23年5月
指標3	東大通り通行量	人/日	3,300	H16	4,200	H22	4,141	4,141	△	あり なし	●	土地区画整理事業等による基盤整備が整ったことで、周辺にオフィスビル等が建築されたほか、道路整備等による安全で安心な歩行空間が整備されたことで、歩行者量が増加した。	平成23年5月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
その他の数値指標1	駅東口地区における放置自転車撤去台数	台/回	26.3	H17			10.8	5.4				宇都宮駅東口自転車駐車場整備等による交通結節機能の強化や、道路整備等による安全で安心な歩行空間が整備されたことで放置自転車撤去台数が減少した。	平成23年5月	
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターを整備したことにより、人々が集うスペースが創出され、住民の地域交流やまちづくり活動の場として様々な催し物が実施されている。 ・今後の宇都宮駅東口地区整備について、賑わいの創出を期待するなど活発な意見が寄せられており、市民のまちづくりへの意識が高まった。 ・市民等による美化活動が行われ、まちづくり活動への参画意識が高まった。 ・防犯対策やバリアフリーの推進を含め、駅前広場が明るく整備されたことで、安全と安心な空間が創出された。 													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	平成21年度にモニタリングを実施 ①事業の進捗状況 ②指標及びその他の数値指標の効果発現状況の確認		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● まちづくりの目標達成の確実性向上を図るため、今後の拠点整備の具体化に伴う計画においてもモニタリングを実施する。						
	住民参加プロセス	・住民説明会の実施 ・地元住民によるコイの放流イベント		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 駅東口地区整備事業の見直しもおおめ、今後とも市民、団体等の多様な担い手が参画するまちづくりを継続させていく。						
持続的なまちづくり体制の構築	・今泉地区コミュニティ協議会		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 意見交換を行いながら連携したまちづくりを進めるとともに、今後とも組織の活動を支援していく。							

様式2-2 地区の概要

宇都宮駅周辺地区(栃木県宇都宮市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標:北関東をリードするひと・もの・文化の交流するゲートシティの形成 県都・宇都宮の玄関口として、ひと・もの・文化が活発に交流し、安全で安心なまちづくりを行う。 目標1:北関東最大のターミナル駅に相応しい交通結節機能の強化 目標2:地域の魅力を向上し、ひと・もの・文化が活発に交流するまちづくり 目標3:すべての人にやさしく安全で安心なまちづくり	宇都宮駅乗降客数	単位:人/日	70,000 H14	72,000 H22	68,329 H22
	今泉地域コミュニティセンター年間利用回数	単位:回/年	260 H17	390 H22	429 H22
	東大通り通行量	単位:人/日	3,300 H16	4,200 H22	4,141 H22
		単位:	H	H	H
		単位:	H	H	H

高質空間形成施設 旧篠原家住宅修復事業



高次都市施設 今泉地域コミュニティセンター整備事業



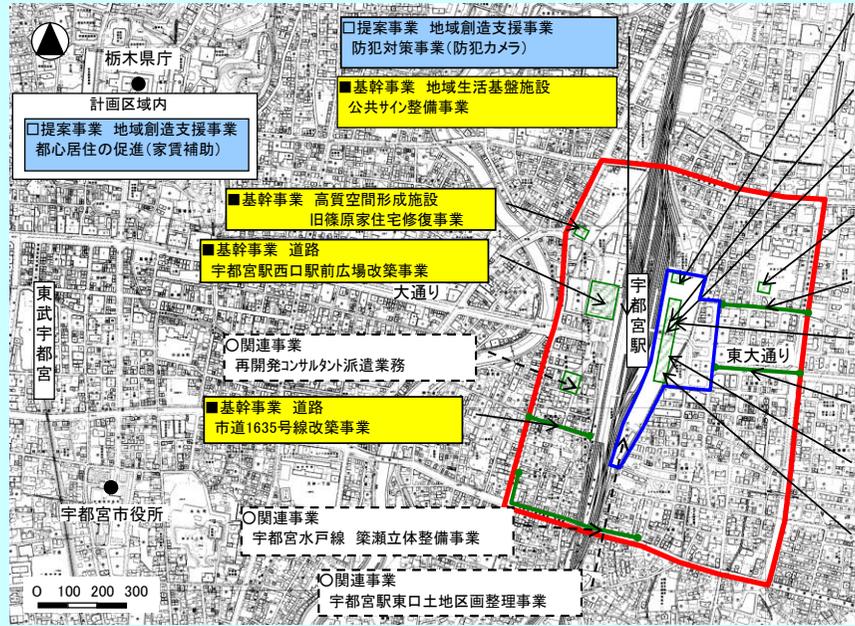
道路 市道1635号線



道路 市道929号線



高質空間形成施設 駅前広場等整備事業(乗降場上屋)



■ 基幹事業 地域生活基盤施設 宇都宮駅東口自転車駐車場整備事業

■ 基幹事業 高質空間形成施設 宇都宮駅東口公衆便所整備事業

■ 基幹事業 高次都市施設 東西自由通路改築事業

■ 基幹事業 高次都市施設 今泉地域コミュニティセンター整備事業

■ 基幹事業 道路 市道929号線改築事業

■ 基幹事業 道路 市道1525号線改築事業

■ 基幹事業 道路 市道1635号線改築事業

■ 基幹事業 高質空間形成施設 駅前広場、自転車歩行者専用道路整備事業

■ 基幹事業 高質空間形成施設 歩行者支援施設(EV、ESC)整備事業

■ 基幹事業 高質空間形成施設 駅前広場、自転車歩行者専用道路整備事業

高次都市施設 東西自由通路整備事業



高質空間形成施設 歩行者支援施設(エレベーター・エスカレーター)



地域生活基盤施設 (仮称)交流広場整備事業(水路修景施設)



まちの課題の変化

- ・駅前広場や自転車駐車場等の整備によりバス・タクシーや乗降場からの乗り換え利便性及び自転車・バイク利用者の利便性が向上した。
- ・バリアフリーの推進等による安全で安心なまちづくりの推進及び水辺空間の整備や多くの植栽による緑あふれる都市空間の創出が図られた。また、明るくて開放的な東西自由通路に改築するなど宇都宮の玄関口としての魅力が向上した。
- ・宇都宮駅乗降客数は、宇都宮駅東口土地区画整理事業(関連事業)や宇都宮駅駅前広場整備等の交通結節機能の強化に取り組んだことで、従来の減少傾向に比べ、減少が緩やかになったが、近年の経済情勢の変動による大手製造業の工場閉鎖や高速道路の割引等による影響から、いまだ減少傾向にある。
- ・本地区を含む中心市街地活性化計画区域内の居住人口は、都心居住促進策等の実施により、下げ止まり傾向にあるものの、賑わい創出のためには、広域交通の要衝地という立地特性を生かした広域的な交流を促進する新たな都市拠点の形成による来街者の増加や、引き続き、都心居住の促進による定住人口の増加を図っていく必要がある。
- ・低炭素型の環境にやさしいまちづくりを推進するため、過度な自動車依存からの脱却を図る必要がある。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

中心市街地は、ネットワーク型コンパクトシティの中核となる都市拠点に位置付けており、宇都宮の顔にふさわしいまちづくりを進める必要がある。
駅周辺においては、県都・宇都宮の玄関口にふさわしい土地利用と景観形成を進め、広域的な商業・業務・生活・文化などの交流を促進する拠点の形成を図る必要がある。
また、引き続き安全で安心なまちづくりの推進や魅力ある街並み形成などの都市環境の改善を持続的に進めていく必要がある。

- ・宇都宮駅乗降客数は依然として減少傾向にあることから、広域交通の要衝地という立地特性を生かした広域的な交流を促進する新たな拠点の形成や多様な機能集積により、来街者の増加を図る。【来街者の増加】
- ・中心市街地内の居住人口は、下げ止まり傾向にあるものの、賑わいの源である居住人口を更に増加させるため、居住実態(世代、域内外転出入状況など)を踏まえ、市民ニーズにも対応した生活空間の形成により、更なる都心居住の促進を図る。【居住人口の増加】
- ・過度な自動車依存の脱却を図り、多様な交通手段によるアクセス性向上、自転車の利用促進と公共交通等の整備の充実により、環境にやさしいまちづくりに取り組む。【自動車依存からの脱却】